



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 夏至のみぎり、一日の長さが嬉しく感じられるこの頃。皆様方に於かれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

第六十三回式年遷宮の、御樋代木奉迎送が六月六日から八日にかけて岐阜県内で行われ、この西濃地域でも南宮大社と今尾神社で、奉迎祭が斎行されました。皆様方の中にも、御木曳に御奉仕された方や沿道でお迎えされた方も多々いらつしやるかと思えます。「御樋代」とは、ご神体を収める器で、その御用材が御樋代木であります。今後九年の年月を費やし、令和十五年には御神殿を始め全ての調度品に至るまで新調なされます。恒例に依れば、数年後には御本殿の御柱等の御木曳行事に於けるご奉仕の機会も設けられる予定です。その節には多くの皆様のご参加を願っております。

一方、大阪では四月に大阪・関西万博が開幕し、長蛇の列が出来るほどの盛況だと聞き及んでおります。空飛ぶ車の展示や人形ロボットのパフォーマンスなど、かつて少年時代夢想した空想世界が、現実味を帯びてきました。万博に於ける日々進歩する先端技術と、御遷宮の千三百年前と寸分違わず同じものを作り続ける伝統技術の対比を興味深く感じております。

さて、当社では日頃より境内地清掃・建物等の補修・調度品の維持管理等に日々努めておりますが、例大祭に掲げられる「まつり提灯」の傷みが激しく、参拝の皆様多くが憂慮される状況を鑑み、今回新調致したく、広く皆様方をお願い申し上げ、ご奉賛賜りたく存じます。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたし、御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

祭事報告

▼年越大祓

十二月三十日

一年を締めくくる神事で、皆様がこの年の後半で知らず知らずのうちに受けた罪・穢れを人形に託して忌み火にてお焚き上げし、清々しく新年をお迎えいただけますよう斎行致しました。

▼元旦祭

一月一日

午前零時、国の隆昌と世界の恒久平和を願い、総代役員参列のもと厳肅に斎行致しました。拝殿前では、新年を祝う多くの参拝者が鈴の音を響かせ、神様へのご挨拶と共に各々の想いを願われておりました。



〈 元旦の様子 〉

▼左義長

一月十五日



〈 左義長 〉

前年、神社で受けられて一年間お護り戴きました、御神符や御守・縁起物、また正月飾りや注連縄等、感謝の祈りを込めてお焚き上げ致しました。

本年も氏子の皆様が、古神札などの仕分け作業を手伝って下さり、予定通りに昼頃には終了する事が出来ました。

▼浄火祭

二月三日

浄火祭とは、ご祈禱を受けられた皆様をご神前へ奉る金幣串を始め、紅白串や願いを込めて奉納された絵馬や帽子をお焚き上げし、諸願成就や厄祓いを願う神事です。



〈 浄火祭 〉

本年も、氏子区域内で選ばれた厄年に該当する四名の男性に、厄男としてご奉仕していただきました。厄男の皆様は、祈願絵馬や金幣串を手に取り、記載のお名前を読み上げて、心願成就と唱えながら、燃え盛る炎に投げ入れました。

神事終了後より火の静まる迄愛用して古くなった帽子の焚き上げが出来る事も有り、多くの方が帽子を持ってご参拝になりました。

また、本年は地元の岐阜新聞の記者がお見えになり、神事の紹介や厄男の皆様への取材内容などが翌日の紙面で掲載されました。

▼祈年祭

二月十六日

祈年祭は「としごひのまつり」とも言われ、例祭・新嘗祭と並ぶ三大祭の一つであり、古来より重要なお祭りとして行われてきました。

農作業の準備をするこの時期に五穀（米・麦・粟・豆・稗）豊穰を祈ると共に、ありとあらゆる産業の発展、そして皇室・国家の安泰を願い滞りなく斎行致しました。

▼鋤山神社例祭

三月十七日

当社の境内社として本殿の北東に鎮座し、伊勢神宮(外宮)の神様である豊受大神をお祀りしております鋤山神社の例祭を、斎行致しました。

▼例大祭

四月二日

午前九時頃、参道にお神輿が設置され、子供たちの賑わう声で境内は溢れかえっております。発輿祭が行われると子供神輿が元氣一杯、大きなかけ声や太鼓の音と共に出發して行きました。お神輿は昼頃には神社へ戻り、終日参道脇に安置され、境内を華やかに彩ります。



〈 例大祭 子ども神輿 〉

午後三時、宮司・献幣使以下九名の神職と五名の楽人により肅々と神事が斎行されました。本年は、岐阜県神社庁の本郷庁長が献幣史としてご奉仕して下さいました。



〈 例大祭 舞楽奉納 〉

午後六時半、夜の帳が降り始めた頃、境内に設置された提灯に火が灯され、その景色が一気に幻想的になります。この様子は、毎年見慣れた筈ですが、何度目にしても美しいと思っております。

全ての提灯に火が灯る夜七時過ぎ、遠くの方より打ち囃子の音が微かに聞こえてきます。氏子区域の子どもたちが、打ち囃子を奏でながら町内を練り歩き、

御首神社を目指して歩いて来ます。境内に入ると、ご神前で今年最後の打ち囃子を奉納し、例大祭は幕を下ろしました。

因みに、この打ち囃子は、子供たちが例大祭一週間ほど前から、毎日練習するのですが、新しく参加してくれる子も多くいる中、一週間でもよくここまで立派に演奏出来るなど、感心させられております。

▼南宮神社例祭

五月四日

御首神社創建の由来に、南宮神社（現・南宮大社）の隼人神が射た矢によって、平将門公が荒尾の地に鎮座す事になったとあります。この由緒に関わり深い南宮大社の御祭神（金山彦大神）を相殿社としてお祀りしております南宮神社の例祭を、恙無く斎行致しました。

▼お田植祭

六月七日

境内の神饌田前にて神事が斎行され、神事後には宮司により

早苗の植え付けが行われました。この苗は神職が大切に育て、今年の新嘗祭にご神前にお供え致します。



〈 お田植え 〉

▼農休祭

六月十五日

田植えが無事に済んだ事への感謝をすると共に、稲が悪天候や害虫被害に遭わず、立派に成長する事を願う神事を、滞りなく斎行致しました。

▼月次祭

毎月一日・二十日に恙無く執

り行いました。

※一月一日は元旦祭斎行のため、月次祭は行われませんでした。

祭事案内

▼西宮神社例祭

七月十七日

商売繁盛や事業繁栄の御神徳があります蛭子命をお祀りする西宮神社の例祭です。

▼末廣稻荷神社例祭

八月三日

京都の伏見稻荷大社より御分霊を賜り、宇迦之御魂神をお祀りしております末廣稻荷神社の例祭です。

例祭当日は、末廣稻荷神社の参道に氏子の子供たちが描いてくれた絵を行燈にして掲げ、夕方には火を灯します。



〈末廣稻荷神社〉

▼夏越大祓

八月三日



〈茅の輪〉

当社では毎年夏に行われる神事で、皆様が半年間の内に知らず知らずに受け犯している罪・穢れを人形（ひとがた）に託してお焚き上げし、残りの半年を無事健康に暮らせませう願います。

神事は、末廣稻荷神社例祭終了後に、境内の遥拝所前（車のお祓いをする所）にて斎行されます。神事の後に「茅の輪くぐり」が行われ、ご参列の皆様は神職に続いて茅の輪くぐりをして頂きます。

茅の輪くぐりは、当日の日没までご参加頂けます。皆様揃ってご参拝下さい。

夏越大祓へのお申し込み方法は、人形に氏名と生年月日を記入し、身体をなでて、息を吹きかけて下さい。人形は一人一枚となりますので、不足の際は各自ご奉製下さい。

尚、人形と申込封筒は社頭にご用意致しておりますので、必要事項をご記入になり、申込封筒にお志しと共に納め、社務所にお申し込み下さい。

尚、ご不明の点は社務所にてお尋ね下さい。



〈左：人形・右：申込封筒〉

※封筒のデザインは変わる場合があります

▼神明神社例祭

十月十七日

当社の境内社として本殿の北西に鎮座し、天照大神をお祀りする神明神社の例祭です。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈驗あらたか：：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂きます。

会員の特典（抜粋）

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千円
家族	五千円
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉

神社社務所まで

〇五八四一九一―三七〇〇

▼七五三

十月

三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社に参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願うものです。

その昔、男児女兒ともに髪を剃る習慣があったとされ、三歳になると髪を伸ばし始める歳と定め、三歳の七五三を「髪置きの儀」と呼びます。

また、五歳は男の子が袴を履き始める歳として、五歳の七五三を「袴着の義」と言います。



令和7年 七五三

	数え歳	満年齢
7歳	令和元年 生まれ	平成30年 生まれ
	令和3年 生まれ	令和2年 生まれ
	令和5年 生まれ	令和4年 生まれ

そして、七歳は女の子が子供用の帯から大人の帯を締め始める歳になるため、七歳の七五三を「帯解きの儀」と呼ぶようになったと伝わっております。

お祝いの年齢は古くから数え歳でありましたが、現在では満年齢で数えられる方も沢山見えます。また、男女共に三歳・五歳・七歳で参りされる方も増えてまいりました。

記載の年齢表をご参考の上、ご都合に合わせてご家族皆様で是非とも当社へご参拝下さい。尚、七五三のご祈祷は十月から年末にかけて随時お仕えいたしております。(予約不要)

▼崇敬会大祭

十一月三日

年に一度、当神社崇敬会会員の皆様の無病息災・家内安全・生業繁栄・子孫繁栄を願い行われます。当日は、県内外より多くの会員の方が集まり、会員皆様それぞれ交流を深めておられます。

また、ご参列の会員の皆様には大祭祈祷神符が授与されます。(一家族一体授与)

▼新嘗祭

十一月二十三日

例祭・祈年祭と並ぶ三大祭の一つとして、古より大切な神事として行われて来しました。

その年の五穀豊穡への感謝を申し上げ、初物を神様に食して頂き、皇室のご安泰、国家の安寧を願います。

また、境内の神饌田にて収穫された御初穂もご神前にお供え致します。

▼月次祭

毎月一日・二十日

末廣稻荷神社 参道幟 募集中

境内東に鎮座する、末廣稻荷神社の参道脇に立ち並ぶ朱色の幟旗は、末廣稻荷神社の八月の例祭とお正月に合せて新調し、約半年間に亘り参道に掲げられます。



八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございますので、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。

*幟一對 初穂料 三千元

編集後記

今号は、まつり提灯ご奉賛の願いを案内させて頂きました都合上、教化記事及び神職への質問記事を割愛させて頂きました。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一

Eメール nyamusyo@mkubi.or.jp
TEL(〇五八四)九一—三七〇〇

『まつり提灯』 ご奉賛のお願い

当神社の例大祭では、参道をはじめ二箇所の屋形また拝殿前に祭禮提灯を掲げております。

しかしながら、長年の風雨や毎年のお出し入れに伴う傷みが激しく、落下などにより参拝者の皆様にご迷惑をお掛けする事が危惧されております。実際に本年の例大祭では、その危険性から提灯を掲げる事が出来ない箇所もございました。また、破損状況があまりにも酷いために、修復が不可能な状態にあります。

そこで、来年の例大祭に向けて屋形提灯と拝殿前提灯を新調する運びとなりました。

つきましては、皆様の赤誠による御奉賛を賜り、大神様の御神威に相応しい立派な提灯を掲げたく、ご協力の程お願い申し上げます。

尚、この趣旨にご賛同のお方は、社務所までお申込頂ければ幸いです。



破損の激しい屋形提灯（左）と拝殿前提灯（右）